

将来都市構造を検討するための将来像可視化シミュレーションツールの構築について

坪井 志朗

公益財団法人豊田都市交通研究所 研究部

連絡先: < tsuboi@ttri.or.jp> Web: < https://www.ttri.or.jp/>

- (1) **動機:** 近年、市街地の拡散や急激な人口減少・高齢化社会に対応するために、立地適正化計画の策定が進行しており、持続可能な都市構造としてコンパクトシティを将来像としている自治体が多い。各地域に適した将来像に向けた事業・計画も進行している一方、目標とする将来像を構築していくためには、行政のみならず、様々な分野の専門家、地元住民、民間企業が協力し合い、共通した将来都市構造のイメージを持つ必要がある。本研究では様々な将来都市構造を検討・可視化できる「将来都市構造可視化シミュレーションツール」の開発を行い、地域特性を考慮したコンパクトシティを検討することで、共通した将来都市構造のイメージを持つ仕組みを提案することを目的とする。
- (2) **方法:** 対象地域は愛知県豊田市とする。100 m メッシュ人口データや中京都市圏パーソントリップデータを用いて、将来推計人口分布や将来推計パーソントリップ分布を構築した上で、詳細な将来像を検討することができる「将来都市構造可視化シミュレーションツール」を構築する(図 1)。
- (3) **結果:** 構築したツールを用いて、様々な将来都市構造を可視化した。主な結果として、土地区画整理事業内の人口が用途地域の平均人口密度まで集約し、鉄道駅周辺の人口を維持することで、豊田市が行政計画で設定している将来目標値を達成することができることを示した。
- (4) **特徴:** 将来都市構造可視化シミュレーションツールを用いて将来像を可視化することによって、専門的な知識を有さない市民とともに将来像を検討ことができ、両者ともに齟齬のない、共通した将来都市構造のイメージを持つことができる。
- (5) **謝辞:** 本研究は JSPS 科研費 JP19K21093 の助成を受けたものです。
- (6) **参考文献:**
株式会社ゼンリンジオインテリジェンス:平成 27 年国勢調査 100 m メッシュ推計データ<https://zgi.co.jp/database/statistics/100m.html>
中京都市圏総合都市交通計画協議会:第 5 回中京都市圏パーソントリップ調査<http://www.cbr.mlit.go.jp/kikaku/chukyo-pt/index.html>

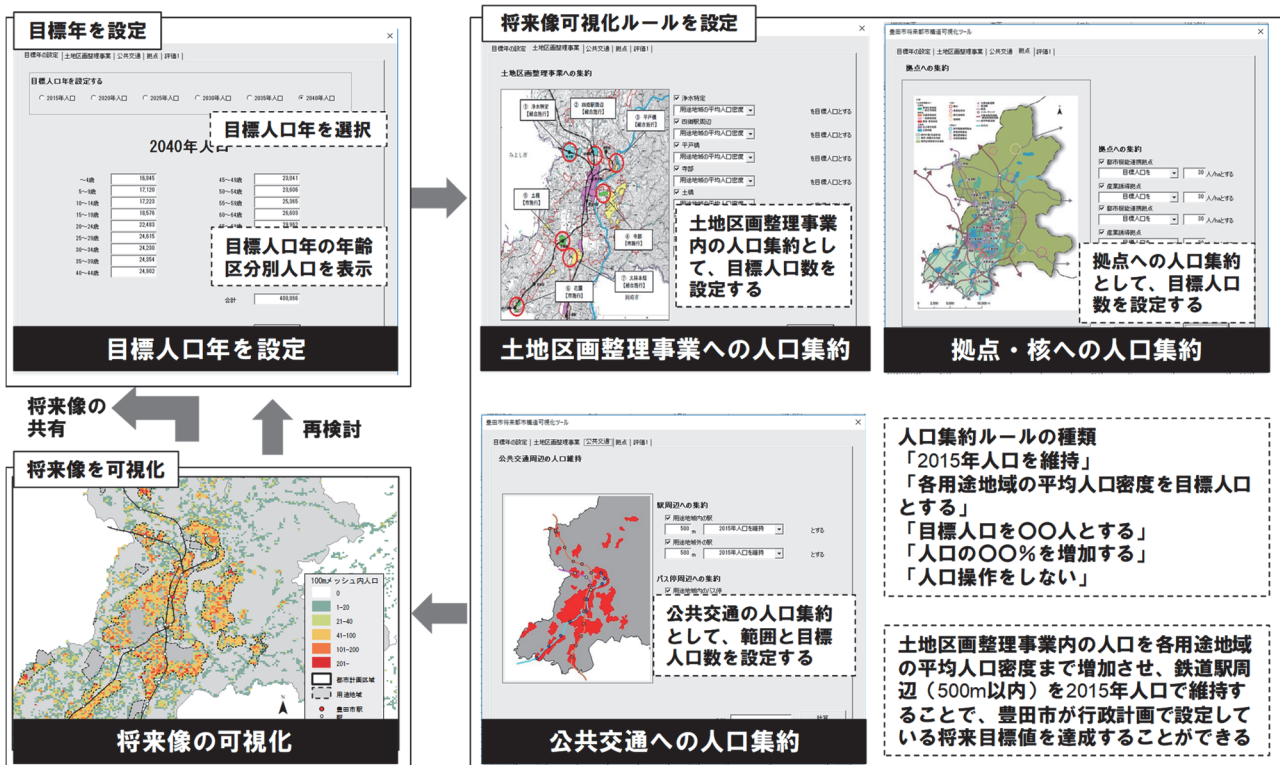


図 1: 将来都市構造可視化シミュレーションツールの操作内容と流れ